

丸山湿原群保全の会会報

(第 170 号)

発行日：2021 年 (R3) 9 月 15 日 編集/発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com



緊急事態宣言が延長されました。今回は最後？ 影響でガイド研修ツアーも中止となりました。日本のトップも入れ替わるようでどうなるのでしょうか。結局どうもならんのが日本のような気がします。そろそろ若手？の時代。古い政治に喝を入れてほしいものです。その前に政治離れが加速しているみたいですが。

コロナ禍の中、生活や医療の逼迫が話題になっていますが、年金の支給額や、公務員・大企業の給料が下がったわけでもない。逆にコロナ需要で儲かりすぎの企業もあるとか。これも一面的な見方や妬み？かたや飲食店や旅行等サービス業の悲惨な状況。

あまりにも格差が生まれすぎていると感じるのは私だけでしょうか。アフターコロナは、逆転現象で今苦しんでいる人が潤う時代になるのか？せめて一時的な格差で終わってほしいものです。今までも格差は大きいけど…

(今住 9 月 14 日作成)

臨時活動★8月21日(土) サギソウ開花数調査ルートセンサスライン張り 7名で活動

お盆の長雨で準備ができなかったため、14日の用意予定が中止に。臨時にライン張りをしました。しかも、緊急事態宣言が8月20日に出たため、一般参加の開花数調査は中止。お申込みいただき、楽しみにされていた方々には申し訳ありませんでした。一般参加は中止しても「サギソウ開花数調査」は「調査」ですので規定通り実施いたします。

雨続きで普段より水の量も多く、毎年のライン位置では水位があるところもありました。水量が増えてきているとも考えられますが、ササ刈りの時には乾いていたので、長雨のせいでしょう。



まじめに作業(手前)とおさぼり(奥)健全

この日も天候が安定せず午後は雨。翌日の天気が心配されました。観察ラインとブロックライン。チャッチャとやると少人数でも40分ぐらいで終了。やればできるんや！と自分たちを褒めていました。

しかし働く人がいればサボる人もいるのが健全な社会。つつい作業中でも観察会。ヒナノカンザシ(雛の簪)・ヒメシロネ(姫白根)・ケシンジュガヤ(毛真珠茅)に目がいきます。もちろんサギソウ(鷺



ヒメシロネかわいい

草)にも。ハッチョウトンボ(八丁蜻蛉)もふらふらと現れました。そろそろ終盤。

雨が続いて水量はほとんど変わらないのが丸山湿原。逆に雨が少なくてもジワジワ水があるのも丸山湿原。湧水(滲水)湿原はどこもこんな感じなのでしょう。西谷の田んぼも同じような感じですが。やはり土壌が関係しているのでしょうか。(鉍質土壌)



ヒナノカンザシ やっぱ小さい



アンズタケ 少し毒があるとか

長雨のおかげ?でキノコも出てきました。アンズ色したアンズタケ(杏茸)。食べられる?けど毒きのこ。空色(考えると奇妙な表現だ!肌色と同じ)のソライロタケ(空色茸)。毒不明。触るとすぐ黄色に変色。これは結構レアらしい。イグチの仲間も。

今年のマツタケ(松茸)はどうなるのでしょうか。口に入れることはまずない…。高校時代は弁当に入っていたのが遠い昔の物語。シイタケで十分。でも天然のシイタケも食べたことはないね。

安全な天然キノコはないという噂もあります。十分お気を付けてください。食べる場合は自己責任で。



ソライロタケ 触ると黄色に変色

サギソウ開花数調査★8月22日(日) 9名で調査 偶然のオブザーバー参加者あり

連日の活動となりました。天候は不順だがますますの天気。昨年は1000株近い数の開花を確認。さて今年は?天候が安定せず薄暗い時間も。サギソウもどれだけ咲いているやら、イメージもつかみにくい感じです。人数も少なく、今年は全員が気合を入れてカウント。と思ったら、やはりカウント中にあれやこれやと話しかけてくるサボりも。健全です。ちょっとイライラしながら数を

数える。たった8人?でのカウントなのにこんなに誤差が出るのかとびっくりするほどの違いも。そ最大734株。最小542株。調査者平均年齢は高い。見えてるものが見えなかったり、見えないものが見えたりしてるのか?お~こわ。来年はもう少し

2021 サギソウ開花数調査結果

丸山湿原エコミュージアム推進協議会
(実施団体 丸山湿原群保全の会)
一般参加はコロナ緊急事態宣言のため中止 会員のみで実施
調査結果(丸山湿原群 第1湿原のみ実施)
調査日: 2021年8月22日(日) (天候: 晴れ?不安定な天気)

区画番号	開花株数	備考	(参考) 昨年 2020.8.16	(参考) 2019.8.18	(参考) 2018.8.18	(参考) 2017.8.19	(参考) 2016.8.20	(参考) 2015.8.19
1	0	奥北	0	0	0	0	0	0
2	4		17	5	4	6	0	1
3	37		55	20	4	8	3	1
4	79		109	49	31	17	9	20
5	62		180	88	83	60	4	79
6	121 (3)	(小湿地)	219 (6)	143 (7)	121 (2)	93 (2)	33 (0)	83 (0)
7	117		168	114	60	63	7	66
8	117		119	125	90	52	26	87
9	71	奥南	77	86	41	40	21	26
合計	608		944	630	434	339	103	363

総開花株数 608 (区画の小数は四捨五入で計算 小湿地は含まず)

考察として…(私見)

- ・サギソウの開花株数は昨年より減少。
- ・最盛期の長雨で日照時間は短い、開花にどう影響しているかは不明。
- ・梅雨明けはほぼ例年通り、7月末から8月初旬は晴天で高温。(今年も7月20日ごろ初見)
- ・今年は水位は比較的高く続いた。
- ・ヌマガヤの成長が雨のためか早く感じられ、開花株を隠しているのは確実。
- ・調査が昨年より約1週間遅いが最盛期を確定するのは困難?
- ・現在の管理(保全)方法で、サギソウにとっては特に問題はないと思われる。



これでほぼ全員の調査員

大人数で北と南の二手からカウントしたいものです。平均は 608 株。



これは何株でしょうか？



ヤマカガシ 黒色型幼体？

勝手に今年の開花数の分析もしています。ここしばらくの長雨で日照時間が少なかった。結果又マガヤが徒長しサギソウを隠してしまった。田んぼの畔も「草が伸びて伸びてかなんねん」と聞いたような。誰からや？そんなに刈らんでもええやろと思いますが。これは蛇足。カウントは毎年西方向からだけの調査。事実昨日のライン張りの時に東側にすごく咲いていると報告がありました。

それと、やはり正確な最盛期がいつかわからない。同一時期に極端な変化がなければ問題なし、としておきましょう。と考えると 2016 年の 103 株は一体何が起こっていたのかと考えさせられます。何があったんや！

一般参加がないので片付け（ライン回収）

もその日のうちにやっちゃいました。出来るやん！エライエライ。もちろんお楽しみ観察も。ひらひら舞うジャノメチョウ（蛇目蝶）。黒色型のヤマカガシ（山棟蛇）。オオカマキリ（大蟻螂）。ハッチョウトンボ。終わってからホンゴウソウ（本郷草）を探しに向かわれた皆さんも。見事発見。しかしそこには先客が爪楊枝目印をつけておられたとか。恐るべし。誰や？

ちょっと気になる話題

以前セミナーに参加された方からご連絡をいただきました。湿原内のカキランがランミモグリバエの被害にあっているのでは、という連絡です。数年前、キンランで話題になったことを記憶しています。「ランミモグリバエ（蘭実潜り蝇？）」（ハモグリバエの一種？）という名前はいまいち印象にはありませんでした。第 3 湿原のカキラン（柿蘭）の被害写真を送っていただきました。（無断転載しました。申し訳ありません。）私も確認するとそれらしい実（種）も。



無断転載のカキラン被害種子（実）

神戸大学の末次健司博士が被害調査をされていて、丸山のツチアケビの実（種）からも確認されたようです。2018 年頃？

もともと知識の少ない身ではキンランやカキラン、ツチアケビなどのラン類は希少という印象。さらに数が減るといわれてもピンとこない。どちらかという丸山湿原に限ってかもしれませんが、カキランは増加傾向のような気がするのですがどうでしょう。

被害により種ができない、株によるクローンばかりでは多様性が低下。もしくは株の寿命で枯れる。ランにとっては危機的な状況とネットなどでは確認できました。（2018 年記事）

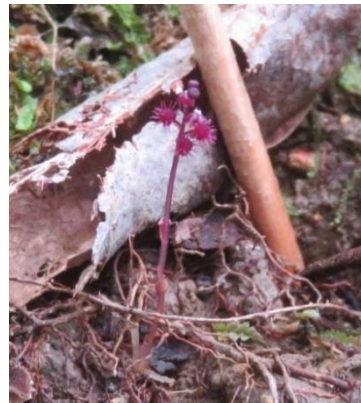


私が見つけた被害？種子（実）

もともとは 1970 年代後半の「エビネブーム」から広がった（国内外来種）被害という話です。しかし、本来の分布域を私は知りません。2mm？ほどのハエ。ラン科すべてに被害が出るのか？天敵は？わからないことばかりです。また教えていただければ幸いです。ま～世の中バランスの世



クロスポイント



ホンゴウソウと爪楊枝

界ですから、ランが増えたらランミモグリバエが増え、ランが減ったらランミモグリバエも減ると思っておきます。ドローンで農薬散布もできないしね。サギソウに入ったらどうなる？でも初夏のラン被害が多いそうなの…。どうしようもないみたいですが。目指せ健全な生態系？

定期活動★9月11日(土) 定期基礎調査 7名で活動 + オブザーバー1名

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	62	64	入口	9:50	25.8℃		
ハイキング	15	16	第3湿原	10:23	【22.8℃】	39.4 μS/cm	6.9
散歩・登山	14	28	視点場	10:35	27.7℃	24.5 μS/cm	7.0
来場者数 計 199人 (竹筒ポスト人数)			第1湿原	10:54	【26.6℃】	29.1 μS/cm	6.9
			第2湿原	11:25	【26.1℃】	32.9 μS/cm	6.9

9月に入りサギソウは数株咲いているだけ、ハッコウトシボも姿を消しました。天候も安定せず突然の大雨も。この日も朝方は雨。「中止？」と思ったとの声も。そのせいか活動中、一般の人に全く合わず。いくら訪問者が少ないといっても真冬でもない限りこんなことはまずない。竹筒カウントも199人と減少。保育園の訪問がなかったのも影響してるか？「丸山コロナ景気」後退とのうわさも。(冗談はいけません) 緊急事態宣言発出中ですし。見映えする花も少なく当然といえば当然。



危険 カエントケ

しかし、また厄介(興味深い)なものが出ました。カエントケ(火炎茸)。2019年に確認。去年は出ませんでした。ほぼ同じところ。猛毒！危険！

「触っただけでもかぶれる」「匂うだけでも危ない」とかいろいろ情報は流れていますが、少なくとも少々近づいても大丈夫なのは確認しています。3gで致死量とか。

湿原内はホシクサの仲間が花盛り。イヌノヒゲ？(シロイヌノヒゲ=白犬の髭)「干し草」ではなく見ての通り「星草」です。ニッポンイヌノヒゲ(日本犬の髭)かな～。何回見てもようわかりません。私はシロイヌノヒゲだと思う。



星草 シロイヌノヒゲ？

サギキョウ(沢桔梗)、ミズトンボ(水蜻蛉)も咲いていますが数が少なく近くでは見ることがなかなかできません。ミミカキグサ類も3種たくさん咲いています。小さいのでよく目を凝らしてご覧ください。



小さなサギキョウ



数は少ないミズトンボ

セミナー紹介 昨年諦めたエコ推主催の「外来生物」セミナーを10月16日(土)に実施予定。西谷の森公園多目的室。講師 「外来昆虫」野本康太さん 「外来植物」植村修二さん 20名限定。時間は10:00~15:00(午後はフィールド)コロナの関係でそっと連絡します。不親切で申し訳ない。人数がね…増やせないのよ！既に定員は一杯。ごめんやで。

次回活動 9月26日(日) 10月9日(土) 16日(土) セミナー 24日(日)